

楓

ふうえん

園

特集

新学期を迎えて

NEWS 大学・大学院／中高部／小学部
東洋英和幼稚園／大学付属 かえで幼稚園 ● 5

英和の日々 ● 10

この人に聞く 堀口 雅子 ● 11

聖書の言葉／訃報／史料室レター／TOYO Wa-Wa ● 12

2016年度 行事予定 ● 13

英和星空探訪／同窓会／お知らせ ● 15



中高部 テニス部

国際テニス連盟の最高水準に位置付けられている人工芝に昨年改修されたグラウンドで、元気に活動しています



新学期を迎えて

「あなたがたがわたしを選んだのではない。
わたしがあなたがたを選んだ。」

ヨハネによる福音書 一五章一六節



2016年4月7日 中学部入学式

新年度が始まり、学院各部で多くの新入生を迎えました。
今号の特集では、中学部の入学式式辞とともに、
今年度の新しい体制をご紹介します。
学院創立三三年目も、どうぞよろしく願っています。

入学式の式辞より — 中学部 —

中学部長 石澤 友康

東京に春を告げてくれた桜の花は今日の雨に連れていかれそうですが、桜に代わって輝かしい顔の新入生たちが英和に春を告げてくれました。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。只今、一人ひとり名前を呼ばれ、ここに晴れて東洋英和女学院中学部の一員となりました。今日からここが皆さんの学校です。

皆さんはフランスの作家ヴェルヌの「十五少年漂流記」を読んだことはありませんか？ 八才から一四才の一五人の少年を乗せた船が嵐で港を離れ漂流し無人島に流れ着きます。そこで彼らがさまざまな困難にも力を合わせていく姿を描いた冒険小説です。彼らは無人島で生きるためにまず住処の洞窟探しと食料調達を行いました。そして彼らが次に行ったことは何だと思えますか？ それは学校をつくることでした。年上が年下の子に船内にあつた本を使い授業をしたのです。作者は物語を通じて、人が生きることの本質を暗示している気がします。もしかしたら助からずに一生を過ごすかもしれない場所で、彼らにまず教育を行わせているのです。学ぶこととは人間の根源的な営みなのです。

皆さんは今日からこの学校で学びます。学びは「三つの出会い」からもたらされるでしょう。一つは「学問との出会い」。中学生となった今

日からは、新しい学問が待っています。平和な社会を築くにはどうしたらいいか、しっかりと自分の考えをつくり上げてください。
次は「人との出会い」。今日出会った友達を大切にしてください。全員が家族から慈しまれ神様に愛されている存在です。

最後は「神様との出会い」です。皆さんは受験の時の学校にしようか迷ったり悩んだりした人もいたでしょう。聖書には次のようなイエス様の言葉があります。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」

皆さんは神様によって選ばれて、この東洋英和に導かれているのです。自分で選んだつもりでいても、実は私たちは知ることができない神様の大きな意志によって、その時に最もよいものが与えられています。なぜなら神様はいつも私たちを愛し、私たちと共にいてくださるからです。皆さんは神様によって、今、自分に最もよい学びの場として東洋英和に導かれたのです。ここでの毎日のびのびと思いきり過ごし、中高生でしか味わえない経験を沢山してください。そして「敬神奉仕」の精神を身に付け、行うことができる人になってください。それが真の英和生です。

皆さんのこれからの学校生活に神様の大きなお守りがありますようお祈りしております。



岡田 光弘

共に歩む

「小学部のお子さんたちは、元気な子が多いそうですね。」と、聞かれることがあります。わたしはいつも、小学部の子どもたちは、学年を超えて、仲良く元気に外遊びを楽しんでいますと答えますが、朝の支度を済ませて、図書室の鍵が開くのを待っている子が沢山いることも伝えていきます。周りに流されず、自分で好きなことが選べる喜びを通して、学年を超えた交流が生まれていることが、小学部の日常生活の様子です。小学部では、給食時のホステスを代表として、異学年が交わる場面が自然と多くなっています。上級生になると、自分がお姉さんたちにしていただいたことを下級生にしてあげることが、当たり前のようになされています。これは、小学部の大きな文化です。同時に、前出した好きなものを通して交流を深められることも大きな特徴で、自然と上級生に対して憧れや尊敬の気持ちが育っています。吸収力が旺盛な児童期に、個々が興味のあるものを通して育つ喜びと、いつも全てを与えてくださっている神様の恵みに感謝して生活できるように、微力ですが最善を尽くし、共に歩んで参りたいと思っております。



大瀬 知子

子どもたちとご家庭の真の幸せを祈るものとして

このたび、石津珠子先生の後を引き継いで園長という重責を拝命しました。キリスト教に根ざし、ご家庭とともに幼な子の『子どもの時』を守り支える保育を継承していくことにあらためて使命と責任を感じさせられています。子どもをめぐる社会の変化が著しい今、軸をしっかりとち、時代を見据えたいと思います。子どもたちとご家庭の真の幸せのために、変えずに守ること、変えていくべきことを、学院と大学との繋がりの中で深く考え選択していきたいと思えます。イエスキリストとの交わりに支えられて、一人ひとりの子どもが安心と信頼関係の中で平和に生きることを、『礼拝』と『遊び』を楽しみ、遊びを通して学ぶ時』を大切にもつこと。他者と関わりながら成長していくこと。それらを心にとめた保育を、教職員と祈りを一つにして丁寧を重ねていきます。また、キリスト教保育を目指す学生の実習の場としての役割にも、努めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



石津 珠子

子どもたちのところに行きなさい

黄金色の水仙を手にした子どもたちとともに私も退任いたしました。付属かえで幼稚園の園長の重責を大学の教員が担う初めての私たちで、二年間務める事が許され感謝です。主事に続いている三年間のかえで幼稚園とのかかりから、たくさんのお恵みをいただいたと感じています。その多くは、子どもの近くにいれたことの喜びに帰するものと、同僚の、保育者として勤める、短大・大学卒業生の方々の働きに接することができたことでした。この経験を、大学での保育者養成で活かして参りたいと思えます。子どもたちの日常のさまざまな表情を間近に感じてくれたことは、なんと豊かで、楽しい事であったかと思えました。朝、門扉の向こう側に待ち構えている顔。礼拝時の静まった顔。木工室での集中した表情と手のわざ。いさんで園庭やホールに飛び出す姿。すりむきや、とげが刺さったとやってくる、お母さんに会いたいと半べその顔。先生とのやりとりを横で聞きながら、子どもの気持ちに寄り添われ、引き立てられて戻っていく姿を、家に帰る時のうれしい顔を、幾度もみられたことです。

水澤郁夫理事長追悼礼拝

二〇一六年一月二十四日(日)二時半より、新マーガレット・クレイグ記念講堂において、昨年十二月三日に天に召された水澤郁夫理事長の追悼礼拝を執り行い、学院関係者、在校生、保護者、同窓生、ご遺族など約二七〇名が参列しました。

吾妻國年副院長の説教、深町正信院長・小泉光人後援会会長・山北千世同窓会会長からのお別れの言葉を通過して、評議員、常務理事、そして理事長として長年にわたって東洋英和のためにご尽力くださった水澤理事長への感謝の思いを深くするとともに、新たに天に召された水澤理事長が主の平安のうちにいらつしやることを信じ、祈りをお捧げしました。礼拝後には、ご遺族を代表してご長男の水澤郁文様よりご挨拶をいただき、池田明史大同学長が閉式の辞を述べました。



四年間の学びの共有、そして社会へ 人間科学科卒業研究発表会へ

卒業研究発表会の意義

人間科学部人間科学科教授 下坂 英

人間科学科・総合人間学コースにおいて、最大のイベントは「卒業研究発表会」です。毎年、その運営について試行錯誤を繰り返していますが、何とか形になってきました。この発表会は、学会のような形式で行われます。事前に、学生たちは各自の卒業論文の要旨を書き、それらを集めた要旨集が作られるのです。要旨を書くというのも面倒な作業ですが、自分の考えをまとめ、簡潔に表現する能力を身につける良い訓練になるでしょう。

発表会の日、学生は全員がポスター発表をします。下の写真のように、自分のポスターの前に立って、見学者に説明をします。ポスター発表は前半と後半に分かれており、発表しない番の学生は、発表する学生の説明を聞いて感想を書くことになっていきます。ポスター発表の後、大教室に集まり、各ゼミの代表が口頭発表を行います。パワーポイントを使い、分かりやすい発表を心がけます。発表者は、やはり緊張するようですが、発表を始める、けっこう堂々とした態度なの

で感じます。発表会には、三年生も参加します。来年度は、自分たちが発表するので、先輩たちの発表を参考にしてみたいと思います。

こうした発表会は、学生たちにとって良い経験になるはずですが、発表することの教育的効果が大きいとは言ってもありません。皆の学びを共有する場という意義もあります。さて、卒業論文は、大学での学びの集大成です。本学の多くの先生方のご指導が反映されているはずでしょう。来年度は、ぜひ多くの先生方が発表会に参加して、学生に質問していただきたいと思います。学生にとって最後の試験であり思い出にもなるでしょう。



パネルに提示された発表資料のあいだをめぐり、質問する参加者たち（手前が筆者）

四年間を締めくくった口頭発表

人間科学科二〇一六年三月卒業 下坂ゼミ 土方 梢

私は大学生活の集大成として卒業論文のテーマに「スペースデブリと国際法」を選びました。スペースデブリとは、人工衛星打ち上げに用いたロケットや使用済みとなった人工衛星などで、宇宙ゴミのことを指します。私がこの存在を知ったのは、あるテレビ番組をみたことがきっかけとなっています。二〇一三年八月に打ち上げとなった、コウノトリが話題となった頃、人工衛星の特集が行われていました。それを見ていた時に不思議に思

うことがありました。それは打ち上げに使ったロケットの行方でした。その疑問を調べてみると、ゴミとなって宇宙に浮遊しているという事実を初めて知りました。この疑問が「科学と社会」を扱うゼミに入った動機ともなっています。このテーマを卒業研究のテーマとして選んだことで、難しい専門的な知識が多く、本を読むのにも苦労しました。しかし、デブリの除去への研究が進んでいることを知ることができたこと、デブリの今後

の課題を自分なりに考えることができたことに喜びを感じました。自分の考えを論文として書く機会は今後ほとんどないことと思うので、印象深い思い出となりました。

口頭発表では、デブリのことを知らない人がほとんどの中、関心を持って聞いてもらえるよう、わかりやすい言葉を用いるよう努力しました。多くの人の前での発表はとても苦手で、かなり緊張しましたが、ゼミの友人からの温かい声援のおかげで何とか発表をやり遂げることができました。苦手分野に立ち向かうことができたことで、大学生活最後に大きな成長が得られたと自負しています。



発表者として、さまざまな質問にも自信をもって答えることができました

最後の舞台・卒業研究発表会

人間科学科二〇一六年三月卒業 渡辺ゼミ

芦澤 瑛里子

あつという間の大学生活四年間。先日
の卒業発表会は、まさに四年間の集大成
にふさわしい一日でした。

私の論文テーマは『中国の占術におけ
る一考察―現代における占術の意義と活
用について―』というものです。科学の
発展した現代でも、なぜ「占い」は存在
するのかという疑問から、各占術が持つ
人生観や哲学、宗教観について研究を始
めました。楽しいイメージをもつ占い
も、実は複雑難解なものであり、非常に
奥の深い学問です。この難解な占いの手
順や自身の考察を、知らない人にわかっ
てもらえるよう、どう説明をするか。そ
こが一番の課題でした。しかしそれと同
時に、そこが四年間培ってきた腕の見せ
所だと思えたおかげで、無事、卒論に打
ち勝つことができ、発表を迎えることが
できました。

私の所属する渡辺和子先生のゼミは、
卒論の最低字数が四万字と、とても多い
です。おそらく、執筆以前にこの字数で
躊躇する人も多いでしょう。私も、当初
はちゃんと書きあがるか心配したもので
した。しかし四万字という大きな壁を越
え、たくさんの人に自分の考察を聴いて

もらい、今は達成感で胸がいっぱいです。
自分のもつ論述力・思考力・話力、そう
いったものを全てこの発表会で発揮した
からです。

考えを論じ、それを相手に伝えるとい
うことは大変なことかもしれません。で
すが、学生のうちにこういった機会を経
験するということは、その後の人生にも
必ず生きてくるように思います。この卒
論発表会は、自身を高める一つの通過儀
礼なのかもしれません。今はそう思います。
これから執筆する人は大変かもしれま
せんが、必ず自分のためになります。だ
からどうか頑張つて、卒論に取り組んで
欲しいです。この発表会が継承され、少
しでも英和生のためになることを私は
願っています。本当に楽しい一日でした。



死生学研究所にて、恩師と
友人たちと（右端が筆者）



卒業研究発表会後、四
年間の戦友であるゼミ生た
ちと

二〇一五年度発表会とその成果

人間科学部人間科学科教授
総合人間学コース・コーディネーター

渡辺 和子

人間科学科の卒業研究発表会が
二〇一六年二月二日に行われました。こ
の発表会は、二〇〇七年度のカリキュラ
ム改革により「卒業研究」という科目が
必修化されたことから制度化されました。
第一回の発表会は、二〇〇七年四月に入
学した学生が卒業する時期の二〇一一年
の一月に行われました。実際の発案者は
柳沢昌義先生であり、全員が自身の卒論
を一〇枚程度のポスターにして説明する
「ポスター発表」、さらにゼミの代表者に
よる「口頭発表」を行えば、盛り上がる
からという理由からでした。

四年生にとっては大学の学業生活の最
後の日ですが、四年生だけでなく、教員
も下級生も最も学び合える日となってい
ると実感しています。臨床心理・社会心
理コースの半数のゼミもポスター発表だ
け参加しています。

六回目となる二〇一五年度の発表会は、
会場を五号館二階に移して行われました。
ポスター発表も口頭発表も年々レベルが
上がってきています。口頭発表でもポス
ター発表でも、この晴れ舞台に立つこと
をめざすと、これほど飛躍的に学ぶのか

ということに驚かされます。また人間科
学は内容が多岐にわたるからこそ、この
ような場でお互いに学び合うことが有意
義です。

一人の口頭発表に対して二人の指定質
問者がありますが、今回からは三年生か
らも選ばれました。だんだん難しい質問
が出るようになっていきます。また三年生
の時からこの発表会に参加して意見、感
想を書いて提出することが義務づけられ
ているため、自分たちの一年後をイメー
ジして卒論作成に励むようです。

私のゼミの芦澤瑛里子さんは絵が得意
ということもあり、発表会の垂れ幕のデ
ザインをお願いしました。「卒業研究要旨
集」の表紙にもなっています。英和カラー
のリボンがついた花束から蝶が飛び立つ
という、みんなを温かく励ましてくれる
ものになって嬉しいのです。

ポスターと要旨集表紙をデザインした

芦澤瑛里子さんのコメント

卒業の饞（はなむけ）としての花束が、「変容」の象
徴である蝶になつて羽ばたいていくさまを描きました。
さなぎだった私たちも、卒業論文という四年間の集大
成を終え、社会に羽ばたこうとしています。それぞれ
が美しい蝶になり、素敵な花に出会えますように。



卒業研究要旨集の表紙

台湾の学校との スカイプを使った交流

国際教育委員会 中島 有紗

一月十二日、高校三年生有志生徒と台湾の高校二年生が、マイクロソフト社のインターネットビデオ電話サービス「Skype」を利用して、一時間程度の対話の時間をもちました。このスカイプ会議は、グローバル教育の一環として昨年度から始まった新しいプログラムです。英和生が、異なる文化や考え方を持つ同世代の若者との交流を通して、視野を広げ、多様性への理解を深めると同時に、英語を使った実践的な発表力や対話力を育成することを目的としています。

昨年度は短期留学の協定校であるオーストラリア・メルボルン郊外の Loreo College の高校生と交流しました。二回目である今回は、台南女子高級中学校の生徒さんと対話することができました。昨年五月十二日にこの台南女子高級中学校から七四名が中高部へ来校し、交流会や高校生の英語の授業への参加を通して、英和生とのつながりを持ちました。そうした縁のある台南女子高級中学校の高校二年生二四名と英和の高校三年生有志一七名が、六つのグループに分かれて、

パソコンモニターを通して、お互いの興味や学校生活、将来に対する望み等について発表しあいました。英和生たちは、事前に紹介したい内容について原稿を書いていたのですが、いざ対話が始まると、お互いの中で質問が飛び交い、活発な対話を行うことができました。途中、台湾側の通信状態の不具合により、うまく通信できない場面もありましたが、さすが高校三年生。臨機応変に対応し、各グループ工夫しながら、対話を進めていきました。最後は、一つのモニター前に全員が集まり、モニターごとに、台湾の高校生たちと一緒に集合写真を撮りました。

以下、三名の生徒の感想を紹介します。

「事前に『高校生のカバンの中身』をテーマとしたプレゼンの用意をしてきた私たちでしたが、当日は、通信状況が悪く、伝えたいことを思うように伝えられず大変でした。

(稲垣 李權)

た。しかし、実物を画面に映し出すことで何とか理解してもらおうことができました。交流会を通して言葉だけでは相手に分かってもらえないことでも、何か見せることによって伝えられることもあるのだと痛感しました。」 (内田 梨花)

「私は台湾を訪れたこともあり今回のスカイプでの交流に興味を持ったため、参加を決意しました。私たちは事前に準備していた『日本のアイドル(ポップカルチャー)』について紹介しました。最初はうまく会話できるか心配もあったのですが、台湾での知名度の高い日本人を紹介すると自然と会話が弾み、互いに同年代の女子高生ということもあり、共通の話題について和気藹々と語り合うことができました。この体験を通じて、これからも世界中の同年代の若者と交流していきたい、と思いました。」



絵や写真を見せながら、日本の文化や学校生活を紹介しました



生徒たちはイヤフォンをして、モニター中央に設置したマイクに向かって話します



台湾の高校生たち。スクリーンには英和生がうつっています

「初めは自分の英語が通じるか、話が合うかなど不安でいっぱいでしたが、実際にスカイプで話をすると、インターネットのつながりの不具合でまず相手に自分の声を届けるということから苦戦することになりました。相手に聞こえるように話すことに必死になるうちに、自然と緊張もほぐれ、英和の同級生と普段話すようなたわいもない話もできるまでになっていました。お互いにアジア系で英語が母語でないことから文法や発音を意識しすぎることなく、自分の意思を伝えることに焦点を当てた会話をすることができ、非常に有意義な時間を送ることができました。」 (長松 佳歩)

聖歌隊の一年

毎年三月に、次年度のための聖歌隊の募集が始まります。四年生以上の希望者で編成される聖歌隊は、一度入隊したら六年生まで続けるという条件付きでしたが、それだと入りたくても入れない人も出てきてしまふということで、数年前から、毎年改めて全員募集をするという形に変更しました。それでも四年生から三年間続ける人も大勢いて、昨年は計六四人で練習を重ねていきました。

指導してくださるのは、辻村恵美子先生。基本的な発声から教えてくださっています。伴奏は、山口眞理子先生。小学部出身の先生はご自身も聖歌隊員として子ども時代を過ごされました。

聖歌隊の奉仕は、イースター・ペンテコステ・クリスマス礼拝と「むかえようクリスマス」に加え、全校礼拝で五回。学校説明会でも賛美します。毎週水曜日の放課後が練習日で、掃除当番に当たっている人は大忙しです。終礼後、時間ぎりぎりまで掃除をし、一息つく暇もなく練習に参加します。それでも皆と一緒に歌い始めると、講堂に響き渡る歌声を心で感じながら、真剣な眼差しで練習に励んでいきます。

こんなことがありました。新メンバーに



なつてからの初めての奉仕は、特に新しく入隊した四年生にとっては終わるまで緊張の連続です。ところが年度が替わったばかりで、慣れない大人讃美歌を歌うため、歌詞も覚えきれないうちに奉仕の日が来てしまいます。見かねた聖歌隊担当の先生が、「休み時間などを使って、少し学年で練習してくださいませんか。」と担任にお願いしました。それから四年生だけの練習が始まりました。休み時間、遊びたい気持ちを



聖歌隊の練習風景

抑え、子どもたちが教室のオルガンの前に集まり練習します。どの子も迫りくる奉仕の日を目前にして、気持ちをそろえて歌います。こういう何気ない生活の「こまは、きつと子どもたちの記憶に残り、聖歌隊として精一杯歌ったのだという、自信につながっていくでしょう。」

礼拝での奉仕の日は、朝の練習があります。いつも以上に早く来て声を出します。この日のクラス朝の会では、聖歌隊の子どもたちはどこかそわそわしていて、時計をじつと見つめています。時間が来たらクラスから抜けて準備をしなければならないからです。そしていざ本番。講堂に静かに響き渡る賛美の声に皆が心を合わせ、礼拝が守られていきました。

十二月に、「むかえようクリスマス」という行事があります。小学部の関係者だけではなく、外部の方々にもクリスマススの喜びをお伝えしたい、という趣旨で始まったこの行事は、今では聖歌隊、ハンドベル、礼拝委員、五年生のキャストが中心となって創り上げる大きなものとなっています。ページェント形式ですので、どこで歌うのか、舞台上に立つキャストや朗読する礼拝委員との兼ね合いも気遣いながら、小一時間、舞台上上がります。そんな子どもたちが楽しみにしているのが、土曜日練習や本番の終わった後に配られるおやつです。学校でおやつをいただくなんてあまりないことです。その時だけはちょっと得したような気持ちになるようです。そして「むかえ



「むかえようクリスマス」に向けての直前の練習

ようクリスマス」が終わるとすぐに、今度はクリスマス礼拝に頭の切り替えをして、冬休みに入る最後の日まで聖歌隊の活動は続いていくのです。

三月の、聖歌隊最後の練習の日。卒業する六年生に一輪のスイートピーが贈られます。花言葉を調べてみると、「ほのかな喜び」「門出」「優しい思い出」「永遠の喜び」などが挙げられていました。自分から進んで入ったとはいえ、遊びたい盛りの子どものちです。いろいろ我慢したことあつたでしょう。でも、いつか大人になった時、この経験が、どんなに貴重で、恵みに満ち溢れていたものかを感じられる時が来ることを、今は祈りたいと思います。

山作り・川作り

昨年、幼稚園創立一〇〇周年を記念して増設された新園舎。以前とは異なる環境に子どもたちの遊びも変わってきました。その一つとして、砂場では、スプーンやカップ、ケーキなど、ごちそうをじっくり作っています。しかし、大きなスコップを使う山や川はどこで作ろうか。砂場はたくさん子どもたちであふれています。幼稚園が昔から大切にしている体いっばい使って水や砂、土の感触を楽しめるように、与えられている環境の中でできる事を保育者同士で意見を出し合いました。そして考えついた



案は、新園舎の裏側の活用。以前の築山の起伏のある地面。奥の方には桜の木があり、根っこが盛り上がり、手前部分はカチコチの土。しかし、スペースには十分。これは繰り返し掘り、水を入れる事で良い遊び場になりそう！と保育者たちの心も踊りました。さっそく子どもたちを誘い、大工事開始。実際に掘ってみると、子どもたちの力では土が硬い上に、小石がゴロゴロ出てきて中々進まず。しかし、目を重ねることに子どもたちのスコップ使いも上達し、ある程度穴が掘れると、「水たくさん持つてこよう！」「海に入ろう！」と

子どもたちも更に気分が高まります。そして、一人が海に入ろうものなら、周りに泥水がはね、あつという間に何人もの子どもたちが泥だらけに。初めは泥が苦手だった子どもも知らない間に顔に泥が付き、友だちと顔を見合わせて大笑い。今では子どもたちの大切な遊び場として暑い夏は泥の海、秋になると綺麗な葉っぱを集めたり、冬には暖かい日差しの中でままだと…とさまざまな遊びが繰り広げられています。



どろんこ どろんこ

保護者の方と両輪となって

―新入園の子どもたちのはじまりの時―

今年も園庭の桜の花びらが美しく舞う中、嬉しそうにまた少し緊張した面持ちで新入園の子どもたちが入園してきました。保育者は一人ひとりの子どもたちが安心して幼稚園での生活を積み重ねていけるよう、保護者の方々と信頼関係を育みながら日々を過ごしていきます。登園すると、すぐに目についたこと（もの）で遊び始める子どももいます。周りをよく見渡し、一つずつ一つずつ手にとり、さわって試してみる子どももいます。同じ場にいる同年齢の存在との淡いふれあいも生まれます。中には

保護者の手をぎゅっと握ったまま離れられない子どももいます。そのような時に、私たちは無理に引き離すことはせず、様子を見て相談した上で保護者の方にも保育室に入っていたりすることもあります。子どもがゆっくり安心をためて動き出すことを支えるためです。そのような時、子どもはお母さまの傍らで他の子どもたちの遊ぶ姿を見えています。お母さまと一緒に過ごすうちに少しずつ動き出します。少し離れてはふりかえったり立ち戻ったりしながら行動範囲をそろそろと広げていきます。やがて保育者への緊張をゆるめ、力を抜いて身を委ねるようになってきます。「あのね」「わたしね」と話しかけるようになり、保育者と一緒に居ることが嬉しくなります。それぞれの姿で過ごすうちに幼稚園が、家庭につながる安心の場となっていきます。それと共に、担任の保育者が園でのお母さんに代わる存在となります。

今年度も、保護者の方と園とが両輪となり、祈りを合せて子どもの育ちを支えていきたいと思っています。



ダンスってたのしい！

英和の日々

2015年12月～2016年3月

東洋英和幼稚園



越後獅子

- 3歳児アドヴェント・
終業礼拝 12月16日(水)
- 4・5歳児アドヴェント・
終業礼拝 12月17日(木)
- 日舞を観る会 2月8日(月)
- 扇子遊び、おしろい、邦
楽器などを自由に体験し、
長唄「越後獅子」を鑑賞
しました。
- 父と子の遠足 2月11日(木)
お父さまがたと新幹線に
乗って南ヶ丘牧場へ行き
ました。雪遊び、ソーセ
ージ作り、動物との触れ
合いを楽しみました。
- 第102回保育証書授与式
3月15日(火)
年長の子どもたち四名
が全員揃い、保育証書を
受け取り、幼稚園から巣
立っていききました。

大学付属かえで幼稚園



お父さまといっしょに遊ぶ

- クリスマス礼拝
3歳児 12月15日
4歳児・5歳児 16日・17日
小学生・中学生 19日
イエスさまのお誕生を喜
び、礼拝をしました。
- 年中組父親参加
2月6日(土)
お父さまといっしょにこ
ままわしやおにごっこを
しました。
- 年長組卒業遠足
3月3日(木)
気持ちのよい青空の中、
富士山の裾野にある遊園
地で乗り物に乗ったり、
そりすべりをしました。
- 保育証書授与式
3月17日(木)
五七名の子どもたちが神
さまの祝福の中、巣立っ
ていきました。

小 学 部



講演なされる藤村真弓先生

- クリスマス礼拝
12月18日(金)
- キリスト教講演会
1月14日(木)
藤村真弓先生をお招きし、
「命の大切さ」について
のお話を伺いました。
- マグノリアコンサート
1月29日(金)
各学年による合唱などの
他、今年度は子どもが歌
うオペラ「トスカ」を全
校で演奏しました。
- 卒業式 3月16日(水)
- 修業式 3月17日(木)
- 韓国学習旅行
3月21日(月)～24日(木)
五年生希望者で、梨花女
子大学附属初等学校を訪
問、二日目には全員ホー
ムステイをさせていただ
き、親交を深めました。

中 高 部



聖書科学習旅行

- 中学部鑑賞行事
12月8日(火)
狂言教室が行われ、九世
野村万蔵氏による「盆山」
と「附子」を鑑賞しました。
- YWCAキャンドルサービス
12月11日(金)
- クリスマス礼拝
12月18日(金)
中学部は礼拝後に聖誕劇
を演じ、高等部は山北宣
久牧師(前青山学院院長)
からお話を伺いました。
- 高等部卒業式
3月17日(木)
- 聖書科学習旅行(沖縄)
3月21日(月)～24日(木)
中高校生有志で、旅行を
通して「命」と「平和」
の尊さを、聖書に基づい
て考えました。

大 学 ・ 大 学 院



レシテーションコンテスト授賞式にて

- 「大学」
レシテーションコンテスト
2016
3月21日(月・祝)
今年で二回目となる本コ
ンテストは、七〇名もの
高校生から応募があり、
本審査では二二名の素晴
らしいレシテーションが
披露されました。
- 退職教授最終講義など
一月から二月にかけて、
今年度末で退職される先
生方の最終講義などが行
われ、長年のお働きに感
謝する時を持ちました。
- 「大学院」
修了式・修了パーティー
3月19日(土)
修了生三〇名の新しい門
出を祝福し、式典とパー
ティーが開催されました。



東洋永和から産婦人科医へ

戦時で学びの場を奪われた東洋永和での無念の思いを薬学・医学の道で癒し、産婦人科医として女性の健康支援(生と性)、更に働く女性の社会的地位確立、出産・育児支援に努められ、86歳になられた今も現役で活躍されている堀口さん。永和生時代やその後のことを振り返り、教えてくださいました。

東洋永和入学

小六の時、大東亜戦争が始まり、夜の空襲の度に起こされ防空壕へ。辛かった。翌一九四二年、永和入学。

英は永に、ガーネットのタイ、憧れの制服はへちま襟の国民服に変えられた。戦時中だが、朝の礼拝に生徒が聖書を読み、自分の言葉で自分たちの問題を語ったように思う。良い思い出。空襲で自宅待機、学校で軍事産業、授業ナシ、芝浦・沖電気の工場で無線通信機のハンダ付け。空襲警報の度に地下室で敵機の去るのを待った。終戦は四年生の夏、翌年三月には卒業で、英和らしい生活・学習は正味三年未満だったかと思う。姉の大熊礼子(一九四五年卒)、妹の故ハウサー寿子(一九五一年卒、ピアニスト)も英和卒。外国籍の先生との接点はなく、戦後再び日本に戻られた時にはもう卒業していた。長野彌校長(ナガボン)は、侵入禁



2級上の姉・姉の同級生と国民服の私。左から中馬(吉野)正子、姉の大熊(江草)礼子、私、安藤(牧)千代子

止の屋上で、丸い輪になりおしゃべりしていた我々に「こらっ、危ないぞ」と怖い顔・大きな声。叱られたのに、目が笑っていたのを今でも懐かしく思い出す。

医者になった経緯と結婚

幼時期から病身で医療者に魅かれ、人形の腕に注射器で水を注入して遊ぶ医者を志す子であった。しかし戦地から男医が帰国し、女医などいらないと屈辱的事情で、薬学に進む。戦後の貧しい生活の中、英和と無関係の薬学通学に憧れの制服を着たのは感無量だった。



薬学1年生の時の仲間と。英和の夏服をやつと着られた時(左端)

卒業後、ホルモンの研究に従事し、数年後、やはり医学をと群馬大学医学部に進む。六〇人中女性は三人、皆より五歳年長で、「おばさん」と呼ばれ過ぎ。自分の好きなことができれば全部優秀である必要はないとビリで卒業。在学中、馬術部に入る。障害飛越、楽しかった。

三八才で同じく産婦人科医の夫と結婚。なんと夫の姉・いとこたち(町田家三人)も英和卒。障がい児

出生を覚悟の高齢出産(三九・四二才)だったが、無事。しかし後輩には医学的・社会的に適齢期出産を強く勧める。仕事と育児の両立・社会的支援・保育事業にも若いお母さんたちと活動した。夫とは少しずつ専門領域が異なるので、家でも仕事や社会の問題は楽しく補い合い生きている。患者様の相談で母子に、「出産は? 愛育(病院)? えっ堀口ドクター? では夫です」なんていう事、その逆に「えっ虎の門(病院)? 私?」もしばしば。

仕事、そして英和とのつながり

現在の専門は、思春期・成熟期・更年期・老年期の生と性に関する心とからだのケア(月経のトラブル・摂食障害・不妊・更年期障害・性交障害・性同一性障害等)。虎の門病院を定年退職後、女性成人病クリニック、主婦会館クリニック(からだと心の診療室)で勤務医として診療を続け、主婦会館「ティーンズカフェ」(女の子のための、からだと心の相談室)でボランティアもしている。診療以外の活動では、一九九七年に「性と健康を考える女性専門家の会」を創立し、ピルの認

可活動を契機に、女性の生涯にわたる心身の健やかな状態維持に必要な社会設立を志す全国的活動を実施。学校・保健所・女性センター等において本人および保護者対象の性教育・更年期教育の講演や講義も行っている。

私の取り上げた赤ちゃんが何人か英和卒という奇跡も。過日英和の催しで卒業生の依頼により「性に関する講演」をしたら、参加した方から「母に『堀口先生は、虎の門病院で貴女を取り上げた方よ』と知らされた」と連絡があり、以後、大人の交流が始まった。英和関係で偶然の出会い・仕事の喜びを沢山いただいている。短期間ではあったが英和の宗教的教え・人間関係は温かいものを育んでくれたと思う。

■ほりぐち まさこ / 1930年3月生まれ。産婦人科医。東京薬学専門学校(現東京薬科大学)、東京理科大学医学進学コースを経て、群馬大学医学部卒業後、東京大学医学部産科婦人科学教室で研修。長野赤十字病院他に勤務後、1970年より虎の門病院産婦人科勤務。医長を経て定年退職後、現在も女性成人病クリニック、主婦会館クリニックで診療にあたっている。お茶の水女子大学、恵泉女学園中学・高等学校他の元校医。性と健康を考える女性専門家の会名誉会長。2003年エイボン女性年度賞 功績賞受賞。著書多数。

聖書の言葉

主よ、あなたはわたしを究め わたしを知っておられる。座るのも立つのも知り 遠くからわたしの計らいを悟っておられる。どこへ行けばあなたの霊から離れることができよう。天に登ろうとも、あなたはそこにいまし 陰府よみに身を横たえようと見よ、あなたはそこにいます。胎児であったわたしをあなたの目は見ておられた。わたしの日々はあなたの書にすべて記されている まだその一日も造られないうちから。

詩編二三九篇より

西欧の古い教会史に記録された出来事の一つ、六二七年にアングロサクソンの諸王や領主たちが集まった或る会議のことがあります。ドーバー海峡を渡って、新しいキリスト教の教えが民衆の間に広まり、もはや無視し得ない状態になっていた。それを受容するべきか否かがテーマだった。議論の中で、一人の領主が立ち上がり比喩をもって語った。「例えば、この邸宅の夜の広間。そこには灯りと燃える暖炉があり、人々の生活と語りがある。ただ戸外は嵐と吹雪が吹き荒れている。そこへ突然、外から一羽の雀が飛び込み、目前でひらりと飛翔して、忽ち反対の戸口から闇の中に消え去った。実は、地上の人間生活もその最初の闇と終わりの闇に挟まれた一瞬の飛翔に似て、その先行するものが何かが、その後続くものが何かを知らず、謎に包まれたままで一生を終える。そこで、もしこの新しい宗教がこれに答えて確信を与えてくれるならば、私はそれに従うのが正しいのではないかと思われる。」

ゲーテがファウスト博士に語らせた言葉があります。「世界をそのもつとも奥深くで統べているものが何であるかを認識したいのだ。」先日、日本人十一番目の宇宙飛行士の「子どもの頃から夢、《宇宙の未知への好奇心》が自分を動かしてきた」の言葉に接し、その勇氣と精進と人間の科学技術の力に改めて感動しました。同時に、あの「一体どこから来てどこへ行くのか?」「自分が偶然の無意味な存在でなければ、その生きる価値と目的とは何か」という古来よりの人間の問いが心に浮かびました。

副院長 吾妻 國年

計報

— 心より哀悼の意を表します —

進藤 紘子氏	元大学一般職員	二〇一六年二月十一日
藤原(倉田)美沙氏	元中学部長、元評議員	二〇一六年二月二日
安中章夫氏	元大学教授	二〇一六年三月八日
西野和子氏	元理事、元評議員	二〇一六年三月二七日

おたよりコーナー



昨年9月に発行された楓の会会報誌「KAEDE Magazine」の野尻特集をうけて、卒業生が野尻への想いを寄せてくださいましたので、ご紹介します。

昨年いただいた KAEDE Magazine で野尻特集が組まれているのを見て、嬉しく思いました。野尻の歴史や昨年度のキャンプの様子、野尻の写真など、野尻っ子としては大変楽しく拝見いたしました。私が野尻キャンプに参加したきっかけは、中3の夏休み、キャンプから戻ってきた友達がキャンプソングを歌い、年関係なく友達を増やし話している姿が非常に楽しそうだったからです。そして翌年、高1で野尻キャンプに参加しました。その時は、学生リーダーになるまでに野尻キャンプとかかわり、社会人になっても毎年野尻へ帰るようになるとは思っていませんでした。私が野尻で得たものはたくさんありますが、なにより人とのつながりは大事で、これからも大切にしていきたいと思っています。野尻を守ってこられた野尻基金の方々、先生方、ご父兄の方々、先輩、年下の友達、いつも野尻で出会うご家族、そして同級生リーダーたち。私たちがおばあちゃんになっても付き合っていた大切な人ばかりです。大切な出会いをくれた野尻には本当に感謝しています。長い歴史のある野尻キャンプサイト、これからもたくさんの方が帰る場所であり、それぞれに大切なものをくれるはずだと思います。ずっとつながっていきますよう、心より祈っています。

伊藤 優

高等部 2009年卒 / 大学 2013年卒

● お便りお待ちしております! ●

〒106-8507 港区六本木5-14-40 東洋英和女学院法人事務局総務企画部総務課 まで
E-mail: koho@toyoeiwa.ac.jp でもお待ちしております。



史料室レター

No.19

学院資料・村岡花子文庫展示コーナー

本部・大学院棟一階に昨年新設された展示コーナーは落ち着いた雰囲気好評です。英和関係者ばかりでなく外部の方も多く訪れてくださり、開設時は一日平均一四名、秋以降も一〇名前後の見学者があります。村岡花子文庫の方は、机や辞書、写真などの他、自筆翻訳原稿を月替わりで常に展示しています。

現在は左記の企画展を開催中です。

「村岡花子と広岡浅子

文学者 村岡花子の誕生」

(8月31日まで)

「ヴォーリスと英和」(9月30日まで)

どちらも、本学院でしか見られない資料が満載です。どうぞお立ち寄りください。



「村岡花子と広岡浅子 文学者 村岡花子の誕生」展示の様子

史料室連絡先 ● TEL : 03-3583-3166 FAX : 03-3583-3329
E-mail : archive@toyoeiwa.ac.jp

小学部

4月	7日(木) 始業式 11日(月) 入学式 21日(木)・25日(月)・5月6日(金) 春の健康診断 28日(木) 春の遠足
5月	7日(土) 学校説明会① 11日(水) 授業参観日 18日(水) ペンテコステ礼拝 28日(土) 運動会
6月	9日(木) 学校説明会② 14日(火) 鑑賞の日 25日(土) 土曜参観日
7月	夏期学校(軽井沢追分) 6日(水) オープンスクール 14日(木)～16日(土) 1年1組 16日(土)～18日(月・祝) 1年2組 18日(月・祝)～20日(水) 2年1組、6年1組 20日(水)～22日(金) 2年2組、6年2組 22日(金)～24日(日) 3年1組・2組 25日(月)～27日(水) 4年1組・2組 27日(水)～30日(土) 5年1組・2組
9月	2日(金) コース別集団下校訓練 8日(木) 入試説明会 12日(月)～15日(木) 6年修学旅行 30日(金) 秋の遠足(1～5年)
10月	1日(土) 追悼記念日礼拝 3日(月)～5日(水) 球技会週 7日(金) 前期終業式 11日(火) 後期始業式 13日(木)・17日(月) 秋の健康診断 27日(木) 児童引取り・徒歩帰宅訓練
11月	2日(水) 入学考査 6日(日) 学院創立記念日 7日(月) 学院創立記念日礼拝 25日(金) 学芸会 28日(月) アドヴェントを迎える会
12月	10日(土) むかえようクリスマス 19日(月) クリスマス礼拝
1月	27日(金) マグノリアコンサート
2月	10日(金)、11日(土・祝) 美術展 親子討論会 17日(金) 授業参観日 21日(火)～24日(金) クラブ発表週
3月	15日(水) 卒業式 16日(木) 修業式 20日(月・祝)～23日(木) スキー教室

東洋英和幼稚園

4月	11日(月) 始業礼拝 14日(木) 入園式 * 春の健康診断
5月	12日(木) はみがき指導 24日(火) 母と子の遠足
6月	11日(土) 父母の会
7月	6日(水)～8日(金) キャンプ(5歳児)〔軽井沢追分〕 14日(木) 終業礼拝 16日(土) 入園説明会①
9月	1日(木) 入園説明会② 2日(金) 始業礼拝 17日(土) 父と遊ぶ日 30日(金) 祖父母の会
10月	1日(土) 追悼記念日礼拝 25日(火)～27日(木) 入園考査 * 秋の健康診断
11月	6日(日) 学院創立記念日 7日(月) 学院創立記念日礼拝 11日(金) りんご園遠足(5歳児) 〔長野県上田市〕
12月	7日(水) 母の会アドヴェント礼拝 15日(木) アドヴェント終業礼拝(3歳児) 16日(金) アドヴェント終業礼拝(4・5歳児)
1月	10日(火) 始業礼拝 * おもちつき
2月	6日(月) 日本舞踊を観る会 11日(土・祝) 父と子の遠足(5歳児)〔那須塩原〕
3月	1日(水) 課外日舞おさらい会 6日(月) 課外ピアノ科おさらい会 * お別れ会 13日(月) 終業礼拝 14日(火) 卒業式

大学付属 かえで幼稚園

4月	6日(水) 始業礼拝(進級児) 7日(木) 新入園児始業 11日(月) 入園式 21日(木) 園外保育(4歳児) 29日(金・祝) ワークI
5月	9日(月) 母の日礼拝 10日(火) 園外保育(5歳児) 26日(木) 健康診断 園外保育(3歳児)
6月	11日(土) ワークII 16日(木) 歯科健診 20日(月)、27日(月) 親と子の集い(4歳児)
7月	14日(木) 終業礼拝(4、5歳児) たのしみ会(3歳児) 15日(金) 夕涼み会(4、5歳児)
8月	23日(火)～26日(金) 夏期保育 29日(月)～31日(水) 軽井沢追分キャンプ(5歳児)
9月	8日(木) 始業礼拝(3、4、5歳児) 9月入園式(3歳児) 24日(土) 入園説明会①
10月	1日(土) 追悼記念日礼拝 3日(月) 園外保育(5歳児) 15日(土) ファミリーデー(4、5歳児) 〔大学校地〕 17日(月) オープンデー(3歳児) 19日(水) 入園説明会② 26日(水) 芋ほり(4、5歳児)
11月	1日(火) 入園願書受付 6日(日) 学院創立記念日 7日(月) 学院創立記念日礼拝・音楽会 12日(土) ワークIII 28日(月) アドヴェント礼拝I
12月	5日(月) アドヴェント礼拝II 12日(月) アドヴェント礼拝III 16日(金) クリスマス礼拝(3歳児) 20日(火)、21日(水) クリスマス礼拝(4、5歳児) 22日(木) 小学生・中高生クリスマス礼拝
1月	11日(水) 始業礼拝(3、4、5歳児) * 教会訪問(5歳児)
2月	11日(土・祝) 父親保育参加(4歳児) * 小学校訪問(5歳児)
3月	2日(木) 卒業遠足(5歳児) 9日(木) 園外保育(4歳児) 15日(水) 終業礼拝(3、4歳児) お別れ会 16日(木) 卒業式

*印は日程が未定

大学院	
4月	2日(土) 入学式・オリエンテーション 23日(土) 健康診断
5月	28日(土) 入試説明・相談会
7月	2日(土) 休講 人間科学領域・幼児教育コース・ 国際協力研究科修士課程 2016年度後期入試 9日(土) 入試説明・相談会
9月	3日(土) 臨床心理学領域修士課程 2017年度前期(秋季)一次入試 国際協力研究科修士課程 2017年度前期(秋季)入試 2016年度後期科目等履修生・ プログラム履修生試験 10日(土) 臨床心理学領域修士課程 2017年度前期(秋季)二次入試 17日(土) 学位授与式/ 入学式・オリエンテーション
10月	1日(土) 追悼記念日礼拝 15日(土) 入試説明・相談会
11月	6日(日) 学院創立記念日 26日(土) 入試説明・相談会
2月	4日(土) 人間科学領域・幼児教育コース 修士課程 2017年度前期(春季)入試 臨床心理学領域修士課程・ 人間科学博士後期課程 11日(土・祝) 臨床心理学領域修士課程・ 人間科学博士後期課程 2017年度前期(春季)二次入試 国際協力研究科 2017年度前期(春季)入試 25日(土) 2017年度前期科目等履修生・ プログラム履修生試験
3月	18日(土) 学位授与式

大学	
4月	2日(土) 入学式 1日(金)~7日(木) 学内オリエンテーション 23日(土) プレイデー
5月	20日(金)~21日(土) 1年生オリエンテーション合宿 〔千葉県南房総市富浦〕
6月	4日(土) 東京女子大学スポーツ交流会 19日(日) オープンキャンパス
7月	17日(日) オープンキャンパス 31日(日) オープンキャンパス
8月	14日(日) オープンキャンパス 28日(日) 入試対策講座
9月	18日(日) オープンキャンパス
10月	1日(土) 追悼記念日礼拝 23日(日) 公募制推薦入試 同窓生子女枠特別推薦入試 一般・社会人編入試、社会人入試
11月	2日(水)、3日(木・祝) かえで祭(進学相談会) 6日(日) 学院創立記念日 12日(土) 指定校推薦・院内推薦入試(1期) *チャペルコンサート 20日(日) 入試対策講座 30日(水) アドヴェント点灯式
12月	9日(金) 清風会クリスマスパーティー(予定) 17日(土) スカラシップ特別入試 19日(月) クリスマス礼拝
1月	7日(土) 院内推薦入試(2期) 外国人留学生入試 14日(土)、15日(日) 大学入試センター試験 31日(火) 一般入試
2月	23日(木) 一般入試(後期)
3月	7日(火) 卒業チャペル・コンサート 10日(金) 卒業式 20日(月・祝) オープンキャンパス(春キャン)

中高部	
4月	7日(木) 中学部入学式 8日(金) 中学部始業式 高等部入学式・始業式 12日(火) 健康診断Ⅰ(中1・高1) 21日(木) 健康診断Ⅱ(全年生) 23日(土) 授業公開日・母の会総会
5月	9日(月)~11日(水) 高3修業会(天城) 10日(火)~12日(木) 中1オリエンテーション(清里) 11日(水) 中2~高2学年行事
6月	7日(火)~10日(金) I学期中間試験 10日(金) 中学部鑑賞行事、花の日礼拝・訪問 16日(木)、17日(金) 高1カンファレンス(御殿場) 25日(土) オープンスクール
7月	1日(金) 合唱コンクール(中学部) 球技会(高等部) 16日(土)~18日(月・祝) オープニングキャンプ(野尻) 19日(火)~8月4日(木) カナダ語学研修 22日(金)~29日(金) 中2夏期学校前後期(野尻) 29日(金)~8月1日(月) 訓練キャンプ(野尻)
8月	1日(月)~8月6日(土) キャンプ(野尻) 1日(月)~3日(水) 夏期修業会(軽井沢追分)
9月	3日(土) 学校説明会 15日(木)~23日(金) I学期期末試験
10月	1日(土) 追悼記念日礼拝 3日(月) II学期始業礼拝 8日(土) 体育祭 21日(金)、22日(土) 楓祭
11月	5日(土) 学校説明会 6日(日) 学院創立記念日 7日(月) 学院創立記念日礼拝 8日(火)~14日(月) 授業公開週間・美術展 14日(月)~18日(金) 高2修学旅行(広島・萩) 22日(火) 球技会(中学部) 26日(土) 入試問題説明会
12月	1日(木)~7日(水) II学期中間試験/高3期末試験 7日(水) 中学部鑑賞行事 10日(土) クリスマス音楽会 20日(火) クリスマス礼拝 26日(月) ミニ学校説明会

2月	1日(水) 一般入試(A日程)・帰国生入試 3日(金) 一般入試(B日程)
3月	1日(水)~7日(火) II学期期末試験 8日(水)、9日(木) 英和茶会 15日(水) 中学部卒業式・修業式 高等部修業式 16日(木) 高等部卒業礼拝 17日(金) 高等部卒業式 20日(月・祝)~4月4日(火) アメリカ語学研修 20日(月・祝)~23日(木) スキー教室(志賀高原) 21日(火)~24日(金) 社会科学習旅行(京都・奈良)

全学院	
4月	1日(金) 新任者辞令交付式 15日(金) 全学院新年度礼拝・歓迎会
6月	3日(金) 後援会・母の会・学院三者懇談会 11日(土) 楓の会春の講演会
7月	1日(金) 後援会常任役員会/役員会/総会 9日(土) 三英和懇談会〔於:静岡英和女学院〕
10月	1日(土) 追悼記念日礼拝 7日(金) 後援会役員懇談会
11月	6日(日) 学院創立記念日 7日(月) 永年勤続者表彰 教育シンポジウム 8日(火) カナダ宣教師墓前礼拝 12日(土) 楓の会秋の芸術公演・役員総会
12月	2日(金) 全学院クリスマス礼拝
3月	3日(金) 後援会・母の会・学院三者懇談会 24日(金) 退職者辞令交付式・送別会



伝統的七夕

少々気が早いですが、七夕の話をしてください。今のカレンダーでは七月七日の七夕は梅雨も後半戦。大雨の時期でもあります。雨が降ると会うことができないといわれている織り姫と彦星もできればこのシーズンでない方が…と願っているのではないのでしょうか。

実は日本で古くから使われていたカレンダー、旧暦の七月七日は現在のカレンダーに直すと、ほぼ八月。梅雨も明けて夏の晴天が続く、日暮れも少しずつ早くなる頃です。織り姫・彦星は七月よりも八月の方がより夜の早い時間に高く見やすい位置に昇ります。また、旧暦では毎月一日（ついでに）が新月になりますので、七日は必ず上弦



上弦の半月より少し欠けた月は地方によっては織り姫と彦星が七夕の日に乗る舟に見立てられています。

の半月より少し欠けた月が夜の早い時間帯に見えています。今のカレンダーは月の満ち欠けを基準にして作られていないので、七夕がまぶしい満月に当たってしまうこともあります。旧暦ならばそのようなことはなく、月明かりが優しく星祭りに華を添えます。旧暦に基づいた「伝統的七夕」、今年は八月九日になります。この日はライトダウンをして星空を見ようというキャンペーンも行われる予定です。

八月の前半、夜九時頃、ちょうど頭の真上にひととき明るく見えている星がこと座のベガ・織り姫星です。東側に体を向け、視線を前方に少し降ろしてくるとベガより少し暗めですが二つの一等星が左右に並んで見えます。左手側がくちよう座のデネブ、右手側がわし座のアルタイル・彦星です。三つの星を結べば夏の大きな三角です。晴れていれば街中でもこの三つ星は見つけることができます。その際は明るい室内から出た後五分から一〇分程度、暗いところで目を慣らせばより星が見つけやすくなります。

お知らせ

楓の会主催 春の講演会のご案内

日時：2016年6月11日(土) 14:00開演
(13:30受付開始)

場所：中高部
新マーガレット・クレイグ記念講堂

講師：中村 哲 医師
テーマ：「アフガンに命の水を」
料金：無料



中村 哲 医師

【申込方法】

下記事項を記入の上、メールにてお申し込みください。なお、電話・FAXでのお申し込みも受け付けます。

●名前 ●学院との関係 ●電話番号 ●人数(原則4名まで)

【申込先・問い合わせ先】

kaedenokai@toyoeiwa.ac.jp
TEL 03-3583-3354 FAX 03-3584-5227
(電話での受付は平日 9:00 ~ 17:00)

【申込期間】

2016年4月25日(月) ~ 5月31日(火)

※お申込は楓の会会員に限ります。定員になり次第、締め切らせていただきます。また、申込期間以前にいただいたお申込は受付いたしませんのでご了承ください。

東洋英和女学院 学院報 楓園 第80号

発行日：2016年5月16日
編集：広報委員会
発行：学校法人 東洋英和女学院
東京都港区六本木 5-14-40 Tel：03-3583-3325
メールアドレス：koho@toyoeiwa.ac.jp
ホームページ：http://www.toyoeiwa.ac.jp

同窓会より

●新入会員のご紹介

東光会(高等部同窓会) 177名/楓美会(大学同窓会) 527名/大学院同窓会 29名の方々が新たに加えられます。ご入会を心より歓迎いたします。

●同窓会総会のご案内

六会の各同窓会が同じ日に六本木校地で総会を開催するようになってから今年で10年目になります。記念すべき総会に皆様のご出席をお待ちしております。今年度より人間科学部保育子ども学科教授になられた深井智朗牧師による礼拝をまず守った後に議事へ。その後には大学の「ウィンドアンサンブル部」にご登場いただき演奏していただきます。一貫校の豊かさを感じさせられ、きっと元気と力を与えられてそれぞれの場へと散らされていく一日となることでしょう。

同窓会総会実施要領

東洋英和女学院同窓会総会	日時：2016年6月4日(土) 13:10より
	会場：新マーガレット・クレイグ記念講堂(六本木校地)
各同窓会総会	礼拝：説教 深井智朗牧師
	総会議事：前年度活動報告・決算報告・監査報告 今年度活動予定・予算案・新役員人事承認
	催事：東洋英和女学院大学ウィンドアンサンブル部演奏
	お茶の会・ミニバザー(15時45分終了予定)
保育部会(短期大学保育科)	10:30 中高部集会室
楓美会(大学)	11:00 本部・大学院棟 大会議室(A)
楓雅会(短期大学国際教養科)	11:00 本部・大学院棟 大会議室(B)
大学院同窓会	11:30 本部・大学院棟 第2会議室
東光会(高等部)	12:10 中高部小講堂

(かえで会総会はありませんが、学院同窓会総会にご出席ください)